

## 研究ノート

# 老年看護教育プログラムが看護学生の高齢者イメージ形成過程に影響する要因 (第3報)

## —老年臨床看護論実習前後における高齢者イメージの比較—



安田 千寿、北村 隆子、畑野 相子  
滋賀県立大学 人間看護学部

キーワード 高齢者イメージ 看護学生 老年看護学実習

### I. 緒言

高齢者ケアの基本的姿勢を身につけ、高齢者のQOL向上を目指した看護を展開するためには、看護者の高齢者に対するイメージが関連するといわれている。高齢者のQOL向上を目指した老年看護学を教授するうえで、学生が高齢者をどのように認識していくかを明らかにすることは重要と考える。

現在老年看護の質を向上させる教育内容を検討するために、4年制大学の1年次から4年次の学生を対象に、高齢者に対するイメージの変容過程を把握し、教育内容とイメージの関連を明らかにしようとする取り組みをしている。それにはまず、老年看護学を学ぶそれぞれの科目における教育内容とイメージとの関連を把握する必要がある。そこで第1報<sup>1)</sup>では、A大学の2年次前期に学ぶ発達看護論演習と臨床看護論Ⅱの前後で高齢者のイメージを比較し、第2報<sup>2)</sup>ではA大学の3年次前期に学ぶ臨床看護論演習の前後でイメージを比較した。

本研究ではA大学の3年次から4年次にかけて学ぶ老年臨床看護論実習の前後で、高齢者イメージがどのように変化したかを明らかにすることを目的とした。

### II. 研究方法

#### 1. 対象

A大学の学生男女63名(男性4名、女性59名)。

#### 2. 調査期間

平成20年10月から平成21年6月。

#### 3. 調査内容

3年次から4年次に実施される老年臨床看護論実習の履修前後に、質問紙による調査を行った。

イメージの測定は、対となる形容詞を両極にとり、その間をスケール化して測定するSemantic Differential Method(SD法)を用い、保坂<sup>3)</sup>や守屋ら<sup>4)</sup>が使用したもののなかから一般的と思われる形容詞15項目を選出して用いた。詳細については第1報で述べている。項目内容は「尊敬できる—尊敬できない」「役に立つ—役に立たない」「好き—嫌い」「明るい—暗い」「積極的—消極的」「さっそうとしている—みじめ」「強い—弱い」「暖かい—冷たい」「優しい—厳しい」「上品—下品」「思いやりがある—思いやりがない」「プライドが高い—プライドが低い」「きれい—きたない」「素直—頑固」「考えが新しい—考えが古い」であり、それぞれ左側に掲げた形容詞極を「評価6」右側を「評価1」とし、6段階評価により実習前後でアンケート調査を行った。

その他、実習前調査において「高齢者との会話を好む度合」を4段階評価で、また「高齢者と会話する機会の頻度」を4段階評価で調査した。

#### 4. 分析方法

①実習前後の高齢者のイメージを測定する調査結果は、Mann-WhitneyのU検定を用いて実習前後の統計的有意差を算出した。

②実習前に行った質問紙による調査を元に「高齢者との会話を好む度合」と「高齢者と会話する機会の頻度」において学生を属性化し、属性別に実習前後の高齢者イメージに差があるかを検定した。

2009年9月30日受付、2010年1月9日受理

連絡先：安田 千寿

滋賀県立大学人間看護学部

住 所：彦根市八坂町2500

e-mail : cyasuda@nurse.usp.ac.jp

なお、以上の検定は統計ソフトSPSS14.0Jを用いて行った。

今回設定した15項目の対極した形容詞には言葉の説明を加えたり定義づけをしたりせず、学生個々が想像するもの全てを含むよう自由な幅を持たせた。A大学の老年実習では学生1人が関わる高齢者は受け持ちの限りではなく、グループメンバー間で情報を共有しあっている。さらに、実習後半には病棟全体に向けたアクティビティケアを通して多く的高齢者を関わるため、回答するイメージは特定の高齢者に限らないと捉えることができる。よって本研究におけるイメージの変化は、イメージの内容の分析や直接の原因を問わず、実習を経験することによってどんな変化がおきたか、それは老年実習の展開方法と関係があるのかに焦点を当て考察する。

## 2. 倫理的配慮

研究対象者に対して、研究の意義、目的、方法を文書により十分説明した。併せて、参加は自由であること、参加を拒否しても何ら不利益を被ることはないこと、参加を途中で中止することも可能であること、成績とは一切関係がないこと、調査内容は目的以外に利用しないこと、結果を論文として発表するに当たっては個人が特定される記載は一切しないこと、終了後は情報を破棄することを伝え、了解を求めた。同意が得られた人のみ回答してもらい、同意が得られない人は白紙にて提出してもらうこととした。なおこの研究は、滋賀県立大学の倫理委員会の審査を受け承認を得た。(平成20年11月18日、第88号承認)

## III. 老年臨床看護論実習について

### 1. 老年臨床看護論実習の概要

A大学の老年臨床看護論実習は、3年次の10月から年度が変わった4年次の6月にかけて、1グループ6~7名ずつ、2週間の実習を行う。実習は介護療養型医療施設2施設で行われており、入所高齢者は特に大きな処置や活動制限はない。施設では食事と入浴以外は個々自由に居場所を決定し活動をされている。そのため学生は、生活上で現れる高齢者の特徴を知ることができ、生活する場での高齢者への看護支援の在り方や、在宅へつなげる看護の在り方を学ぶことができる。近年では高齢化社会の影響より、急性期・慢性期看護実習における受け持ち患者が高齢者になることが多いが、老年看護の実習ではその専門性の理解を深めることができる<sup>5)</sup>とされている。

学生が主に行っているケアは、排泄介助、移動・移乗介助、入浴介助、食事介助、足浴、フットケアなどである。その他機能訓練、他職種・家族が参加するカンファ

レンスの見学や、家族との接触、高齢者の趣味活動の参加や回想法の実施を通して学んでいる。実習2週目には、実習病棟の高齢者全体を対象に、学生主催によるアクティビティケア(Activity Care;生活の活性化を目的に行う援助活動)を実施している。

## 2. 実習の流れ

A大学の老年臨床看護論実習の流れを表1に示した。

実習では学生1人に対し高齢者1名を受け持ち、その方の特性または高齢であるがゆえの特徴を理解し、個々にあわせたケアを計画し実践している。中でも情報収集においては、あらかじめ学生に知らせる内容を「患者氏名」「年齢」「基礎疾患名」「医師による安静度」「ADLレベル」に限定し、実習初日はカルテ等病院側の資料からは一切情報が得られないようにしている。そのため学生は、指導者のもと高齢者本人に直接触れたり、あるいは言葉を交わしたりしながら情報を得て直接対象の理解をしなければならぬ。これらは同時にコミュニケーション技術の向上や高齢者との信頼関係を築くねらいを含んでいる。また、指導者及びスタッフ、あるいは面会に来られた家族にも質問を投げかけるなどして対象理解を深めるよう指導している。

## 3. 実習目標

以下は、A大学の老年臨床看護論実習における実習目標である。

- 1) 受け持ち高齢者の特徴を理解する。
- 2) 受け持ち高齢者の特徴を踏まえた援助の方向性を考えることができる。
- 3) 施設における高齢者の生活・療養の場を知り、それらが高齢者の健康に与える影響について理解する。
- 4) 高齢者のあらゆる側面を統合しながら、QOLを踏まえた日常生活援助を実践することができる。
- 5) 高齢者の生活を支援する社会サービスシステムについて理解し、他職種と看護の連携について学ぶ。
- 6) 高齢者に対し、尊重した姿勢や態度でかかわる。
- 7) グループメンバーと協力しながら実習に取り組む。

## IV. 研究結果

アンケートの集計結果は、実習前回答数57名(回答率90.4%)、実習後回答数55名(回答率87.3%)であった。有効回答数は実習前57名(回答率90.4%)、実習後49名(回答率77.7%)であった。

### 1. 高齢者の状況

実習後に回答のあった学生の受け持ち高齢者を年代別

表1 老年臨床看護実習の流れ

1) 第1週目

	午前 (8:30~12:00)	午後 (13:00~16:00)	
月 (施設)	・病棟オリエンテーション ・情報収集（自らの五感を使って情報収集を行う）	・情報収集 ・受持ち利用者の看護への参加	カンファレンス (15:00~15:40) 翌日の行動計画の 確認 (15:40~16:00)
火 (施設)	・受持ち利用者の看護への参加 ・カルテより情報収集追加。	・受持ち利用者の看護への参加	
水 (学内)	・受持ち利用者の看護計画立案	・受持ち利用者の看護計画立案	
木 (施設)	・受持ち利用者への看護実践 (看護計画発表)	・受持ち利用者への看護実践	
金 (施設)	・受持ち利用者への看護実践	・受持ち利用者への看護実践	

2) 第2週目

	午前 (8:30~12:00)	午後 (13:00~16:00)	
月 (施設)	・受持ち利用者への看護実践	・受持ち利用者への看護実践	カンファレンス (15:00~15:40) 翌日の行動計画の 確認 (15:40~16:00)
火 (学内)	・受持ち利用者の看護計画修正	・アクティビティケア計画	
水 (施設)	・受持ち利用者への看護実践	・受持ち利用者への看護実践 ・アクティビティケア実践	
木 (施設)	・受持ち利用者への看護実践	・受持ち利用者への看護実践	・反省会
金 (学内)	・実習のまとめ (サマリーを用いて全体討議する)	・実習まとめ ・記録物の整理・提出 (必要に応じて個人面接を行う)	

にみると60代2名(3.6%)、70代9名(16.4%)、80代30名(54.5%)、90代14名(25.5%)、性別区分では男性8名(14.5%)、女性が47名(85.4%)であった。またアクティビティケアで関わる病棟全体の高齢者の概要は2施設ほぼ同様であり、52~55床で80代から90代が90%以上を占めている。平均的認知度については、厚生労働省から示されている介護保険認定用尺度の認知症高齢者の日常生活自立度判定基準においてⅢ（日常生活に支障をきたす

ような症状・行動や意思疎通の困難さがみられ、介護を必要とする）であり、平均介護度は4.1（要介護4の目安；日常生活の全般で能力の低下がみられ、排泄・入浴・衣服の着脱に全面的な介助、食事に一部介助が必要。介助なしでは日常生活が困難）、である。学生は生活上何らかのサポートが必要である方々を対象に実習をしている。

## 2. 実習前の学生の背景

学生の中で高齢者と会話する機会の頻度は「たまに」も含めて34名(54.0%)が「ある」と回答、「ほとんど」も含めて「ない」と回答したのは23名(36.5%)であった。また、高齢者との会話を好む度合は、「まあまあ」を含めて「好む」と回答したのは51名(81.0%)、「あまり」を含めて「嫌い」と回答したのは6名(9.5%)であった。

## 3. 実習前後におけるイメージの比較

実習開始前後それぞれの高齢者のイメージを表2に示した。

実習前の調査では、5-6レベルを合わせて50%以上占めた高齢者イメージは「尊敬できる」「役に立つ」「好き」「暖かい」「優しい」「思いやりがある」であった。また、比較的1-2レベルが多かったイメージは「弱い」「頑固」が全体の約20%、「考えが古い」では全体の約40%を占めた。どちらともつかない中間の3-4レベルが多かったイメージは「積極的-消極的」「さっそうとしている-みじめ」「きれい-きたない」で全体の約75%であった。

実習前後により15項目それぞれのイメージに差があるかを検定した結果、実習後に有意にイメージが変化した項目は15項目中8項目で、「好き」「明るい」「素直」「積極的」「強い」「暖かい」「やさしい」「考えが新しい」であった。

「好き」の6レベルは14名(22.2%)から28名(44.4

%)に増え、「明るい」も3名(4.8%)から12名(19.0)へと増して、一層6レベルのイメージが強くなった。(p<.01)。また実習開始前には「頑固」のイメージを示していた項目は、1-2レベルが15名(23.8%)から2名(3.2%)へと減少し、5-6レベルが5名(7.9%)から27名(42.9%)に増加して「素直」へとイメージ変化をした(p<.01)。

その他、「暖かい」「優しい」の項目は1-2レベルのイメージを持っていた学生が消失し、実習開始前に「弱い」「考えが古い」を示した項目は、それぞれ1-2レベルが15名(23.8%)から3名(4.8%)へ、27名(42.8%)から15名(23.8%)へ減少して、6レベルの方向へと変化した(p<.05)。

実習開始前に中間のイメージを示していた「積極的-消極的」の項目は、5-6レベルが3名(4.8%)から17名(27.0%)へと増え、6レベルの方向へと変化した(p<.05)。

## 4. 学生の属性別にみた実習前後におけるイメージの比較

### 1) 実習前の"高齢者と会話する機会の頻度"別にみた、実習前後における高齢者イメージ

実習以前より高齢者と会話する機会の頻度が「ある」「たまにある」と回答したものを"ある"群、「ほとんどない」「ない」と回答したものを"ない"群とし、実習前後における高齢者イメージの変化を表3に示した。

表2 実習前後における高齢者のイメージ

(N:実習前=57, 実習後=55)

調査時期		6		5		4		3		2		1		Mann-Whitney 検定
		人数	(%)	人数	(%)									
尊敬できる	実習前	26	(41.3)	26	(41.3)	4	(6.3)	1	(1.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	尊敬できない
	実習後	35	(55.6)	13	(20.6)	6	(9.5)	0	(0.0)	1	(1.6)	0	(0.0)	
役に立つ	実習前	6	(9.5)	26	(41.3)	21	(33.3)	4	(6.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	役に立たない
	実習後	9	(14.3)	22	(34.9)	18	(28.6)	5	(7.9)	1	(1.6)	0	(0.0)	
好き	実習前	14	(22.2)	28	(44.4)	11	(17.5)	2	(3.2)	2	(3.2)	0	(0.0)	嫌い **
	実習後	28	(44.4)	20	(31.7)	4	(6.3)	2	(3.2)	1	(1.6)	0	(0.0)	
明るい	実習前	3	(4.8)	16	(25.4)	26	(41.3)	11	(17.5)	1	(1.6)	0	(0.0)	暗い **
	実習後	12	(19.0)	24	(38.1)	17	(27.0)	1	(1.6)	1	(1.6)	0	(0.0)	
積極的	実習前	0	(0.0)	3	(4.8)	20	(31.7)	27	(42.9)	7	(11.1)	0	(0.0)	消極的 *
	実習後	1	(1.6)	16	(25.4)	19	(30.2)	13	(20.6)	5	(7.9)	1	(1.6)	
さっそうとしている	実習前	1	(1.6)	7	(11.1)	33	(52.4)	14	(22.2)	2	(3.2)	0	(0.0)	みじめ
	実習後	1	(1.6)	13	(20.6)	27	(42.9)	11	(17.5)	3	(4.8)	0	(0.0)	
強い	実習前	7	(11.1)	8	(12.7)	7	(11.1)	19	(30.2)	14	(22.2)	1	(1.6)	弱い *
	実習後	2	(3.2)	19	(30.2)	13	(20.6)	18	(28.6)	2	(3.2)	1	(1.6)	
暖かい	実習前	20	(31.7)	25	(39.7)	8	(12.7)	2	(3.2)	2	(3.2)	0	(0.0)	冷たい *
	実習後	27	(42.9)	15	(23.8)	13	(20.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	
優しい	実習前	18	(28.6)	25	(39.7)	12	(19.0)	1	(1.6)	1	(1.6)	0	(0.0)	厳しい *
	実習後	29	(46.0)	17	(27.0)	9	(14.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	
上品	実習前	5	(7.9)	15	(23.8)	26	(41.3)	11	(17.5)	0	(0.0)	0	(0.0)	下品
	実習後	6	(9.5)	18	(28.6)	21	(33.3)	9	(14.3)	1	(1.6)	0	(0.0)	
思いやりがある	実習前	13	(20.6)	24	(38.1)	18	(28.6)	1	(1.6)	1	(1.6)	0	(0.0)	思いやりがない
	実習後	21	(33.3)	23	(36.5)	9	(14.3)	0	(0.0)	2	(3.2)	0	(0.0)	
プライドが高い	実習前	5	(7.9)	22	(34.9)	20	(31.7)	9	(14.3)	1	(1.6)	0	(0.0)	プライドが低い
	実習後	4	(6.3)	20	(31.7)	18	(28.6)	9	(14.3)	4	(6.3)	0	(0.0)	
きれい	実習前	3	(4.8)	5	(7.9)	35	(55.6)	13	(20.6)	1	(1.6)	0	(0.0)	きたない
	実習後	0	(0.0)	18	(28.6)	24	(38.1)	11	(17.5)	2	(3.2)	0	(0.0)	
素直	実習前	1	(1.6)	4	(6.3)	13	(20.6)	24	(38.1)	14	(22.2)	1	(1.6)	頑固 **
	実習後	10	(15.9)	17	(27.0)	10	(15.9)	16	(25.4)	2	(3.2)	0	(0.0)	
考えが新しい	実習前	2	(3.2)	1	(1.6)	7	(11.1)	20	(31.7)	22	(34.9)	5	(7.9)	考えが古い *
	実習後	0	(0.0)	2	(3.2)	14	(22.2)	24	(28.1)	12	(19.0)	3	(4.8)	

\*\* p<.01, \* p<.05

表3 高齢者と会話する機会の頻度による実習前後の高齢者のイメージ

(N:ある=34, ない=23)

	話をする機会	頻度						Mann-Whitney検定			
		6 人数 (%)	5 人数 (%)	4 人数 (%)	3 人数 (%)	2 人数 (%)	1 人数 (%)				
実習前	尊敬できる	有なし	18 (52.9) 8 (34.8)	14 (41.2) 12 (52.2)	1 (2.9) 3 (13.0)	1 (2.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	尊敬できない		
	役に立つ	有なし	6 (17.6) 0 (0.0)	17 (50.0) 9 (39.1)	8 (23.5) 13 (56.5)	3 (8.8) 1 (4.3)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	役に立たない	*	
	好き	有なし	12 (35.3) 2 (8.7)	13 (38.2) 15 (65.2)	7 (20.6) 4 (17.4)	1 (2.9) 1 (4.3)	1 (2.9) 1 (4.3)	0 (0.0) 0 (0.0)	嫌い		
	明るい	有なし	2 (5.9) 1 (4.3)	11 (32.4) 5 (21.7)	14 (41.2) 12 (52.2)	7 (20.6) 4 (17.4)	0 (0.0) 1 (4.3)	0 (0.0) 0 (0.0)	暗い		
	積極的	有なし	0 (0.0) 0 (0.0)	2 (5.9) 1 (4.3)	12 (35.3) 8 (34.8)	15 (44.1) 12 (52.2)	5 (14.7) 2 (8.7)	0 (0.0) 0 (0.0)	消極的		
	さっそうとして	有なし	1 (2.9) 0 (0.0)	4 (11.8) 3 (13.0)	21 (61.8) 12 (52.2)	7 (20.6) 7 (30.4)	1 (2.9) 1 (4.3)	0 (0.0) 0 (0.0)	みじめ		
	強い	有なし	7 (20.6) 0 (0.0)	4 (11.8) 4 (17.4)	5 (14.7) 2 (8.7)	9 (26.5) 10 (43.5)	9 (26.5) 5 (21.7)	0 (0.0) 1 (4.3)	弱い		
	暖かい	有なし	14 (41.2) 6 (26.1)	13 (38.2) 12 (52.2)	3 (8.8) 5 (21.7)	2 (5.9) 0 (0.0)	2 (5.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	冷たい		
	優しい	有なし	14 (41.2) 4 (17.4)	14 (41.2) 11 (47.8)	4 (11.8) 8 (34.8)	1 (2.9) 0 (0.0)	1 (2.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	厳しい		
	上品	有なし	3 (8.8) 2 (8.7)	10 (29.4) 5 (21.7)	16 (47.1) 10 (43.5)	5 (14.3) 6 (26.1)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	下品		
	思いやりがある	有なし	10 (29.4) 3 (13.0)	16 (47.1) 8 (34.8)	6 (17.6) 12 (52.2)	1 (2.9) 0 (0.0)	1 (2.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	思いやりがない	*	
	プライドが高い	有なし	3 (8.8) 2 (8.7)	15 (44.1) 7 (30.4)	10 (29.4) 10 (43.5)	5 (14.7) 4 (17.4)	1 (2.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	プライドが低い		
	きれい	有なし	2 (5.9) 1 (4.3)	5 (14.7) 0 (0.0)	22 (64.7) 13 (56.5)	4 (11.8) 9 (39.1)	1 (2.9) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	きたない	*	
	素直	有なし	1 (3.0) 0 (0.0)	2 (6.1) 2 (8.7)	7 (21.2) 6 (26.1)	14 (42.4) 10 (43.5)	9 (27.3) 5 (21.7)	0 (0.0) 0 (0.0)	頑固		
	考えが新しい	有なし	2 (5.9) 0 (0.0)	1 (2.9) 0 (0.0)	4 (11.8) 3 (13.0)	10 (29.4) 10 (43.5)	15 (44.1) 7 (30.4)	1 (5.9) 3 (13.0)	考えが古い		
	実習後	尊敬できる	有なし	23 (74.2) 8 (44.4)	5 (16.1) 7 (38.9)	3 (9.7) 2 (11.1)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	尊敬できない	*
		役に立つ	有なし	5 (16.1) 2 (11.1)	14 (45.2) 8 (44.4)	11 (35.5) 5 (27.8)	1 (3.2) 2 (11.1)	0 (0.0) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	役に立たない	
		好き	有なし	19 (61.3) 7 (38.9)	9 (29.0) 8 (44.4)	1 (3.2) 2 (11.1)	2 (6.5) 0 (0.0)	0 (0.0) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	嫌い	
		明るい	有なし	7 (22.6) 4 (22.2)	16 (51.6) 7 (38.9)	7 (22.6) 6 (33.3)	1 (3.2) 0 (0.0)	0 (0.0) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	暗い	
		積極的	有なし	0 (0.0) 1 (5.6)	9 (29.0) 6 (33.3)	11 (35.5) 5 (27.8)	8 (25.8) 3 (16.7)	2 (6.5) 3 (16.7)	1 (3.2) 0 (0.0)	消極的	
さっそうとして		有なし	1 (3.3) 0 (0.0)	5 (16.7) 6 (33.3)	17 (56.7) 7 (38.9)	6 (20.0) 4 (22.2)	1 (3.3) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	惨め		
強い		有なし	2 (6.5) 0 (0.0)	10 (32.3) 7 (38.9)	8 (25.8) 4 (22.2)	9 (29.0) 6 (33.3)	2 (6.5) 0 (0.0)	0 (0.0) 1 (5.6)	弱い		
暖かい		有なし	16 (51.6) 9 (50.0)	9 (29.0) 4 (22.2)	16 (19.4) 5 (27.8)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	冷たい		
優しい		有なし	18 (58.1) 8 (44.4)	8 (25.8) 6 (33.3)	5 (16.1) 4 (22.2)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	厳しい		
上品		有なし	2 (6.5) 3 (16.7)	11 (35.5) 5 (27.8)	13 (41.9) 6 (33.3)	5 (16.1) 3 (16.7)	0 (0.0) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	下品		
思いやりがある		有なし	12 (38.7) 6 (33.3)	14 (45.2) 6 (33.3)	5 (16.1) 4 (22.2)	0 (0.0) 0 (0.0)	0 (0.0) 2 (11.1)	0 (0.0) 0 (0.0)	思いやりがない		
プライドが高い		有なし	1 (3.2) 3 (16.7)	12 (38.7) 5 (27.8)	10 (32.3) 8 (44.4)	6 (19.4) 1 (5.6)	2 (6.5) 1 (5.6)	0 (0.0) 0 (0.0)	プライドが低い		
きれい		有なし	0 (0.0) 0 (0.0)	11 (35.5) 6 (33.3)	15 (48.4) 4 (22.2)	5 (16.1) 6 (33.3)	0 (0.0) 2 (11.1)	0 (0.0) 0 (0.0)	きたない		
素直		有なし	6 (19.4) 3 (16.7)	10 (32.3) 5 (27.8)	4 (12.9) 3 (16.7)	9 (29.0) 7 (38.9)	2 (6.5) 0 (0.0)	0 (0.0) 0 (0.0)	頑固		
考えが新しい		有なし	0 (0.0) 0 (0.0)	2 (6.5) 0 (0.0)	8 (25.8) 5 (27.8)	12 (38.7) 9 (50.0)	7 (22.6) 3 (16.7)	2 (6.5) 1 (5.6)	考えが古い		

\*\* p<.01, \* p<.05

表 4 高齢者との会話を好む度合いによる実習前後の高齢者のイメージ (N:好き=51, 嫌い=6)

	会話の好み	6		5		4		3		2		1		Mann-Whitney検定	
		人数 (%)	人数 (%)												
実習前	尊敬できる	好き 24 (47.1)	嫌い 2 (33.3)	好き 22 (43.1)	嫌い 4 (66.7)	好き 4 (7.8)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	尊敬できない	
	役に立つ	好き 5 (9.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 24 (47.1)	嫌い 2 (33.3)	好き 19 (37.3)	嫌い 2 (33.3)	好き 3 (5.9)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	役に立たない	
	好き	好き 14 (27.5)	嫌い 0 (0.0)	好き 27 (52.9)	嫌い 1 (16.7)	好き 8 (15.7)	嫌い 3 (50.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 1 (2.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	嫌い *	
	明るい	好き 3 (5.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 15 (29.4)	嫌い 1 (16.7)	好き 24 (47.1)	嫌い 2 (33.3)	好き 9 (17.6)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	暗い	
	積極的	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 3 (5.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 16 (31.4)	嫌い 4 (66.7)	好き 27 (52.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 5 (9.8)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	消極的	
	さっそうとしてい	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 7 (13.7)	嫌い 0 (0.0)	好き 30 (58.8)	嫌い 3 (50.0)	好き 12 (23.5)	嫌い 2 (33.3)	好き 1 (2.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	惨め	
	強い	好き 6 (11.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 6 (11.8)	嫌い 2 (33.3)	好き 6 (11.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 18 (35.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 13 (25.5)	嫌い 1 (16.7)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	弱い	
	暖かい	好き 19 (37.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 22 (43.1)	嫌い 3 (50.0)	好き 7 (13.7)	嫌い 1 (16.7)	好き 2 (3.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	冷たい	
	やさしい	好き 17 (33.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 23 (45.1)	嫌い 2 (33.3)	好き 9 (17.6)	嫌い 3 (50.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	厳しい	
	上品	好き 4 (7.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 15 (29.4)	嫌い 0 (0.0)	好き 23 (45.1)	嫌い 3 (50.0)	好き 9 (17.6)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	下品	
	思いやりがある	好き 13 (25.5)	嫌い 0 (0.0)	好き 21 (41.2)	嫌い 3 (50.0)	好き 16 (31.4)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	思いやりがない	
	プライドが高い	好き 5 (9.8)	嫌い 0 (0.0)	好き 18 (35.3)	嫌い 4 (66.7)	好き 18 (35.3)	嫌い 2 (33.3)	好き 9 (17.6)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	プライドが低い	
	きれい	好き 3 (5.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 4 (7.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 33 (64.7)	嫌い 2 (33.3)	好き 10 (19.6)	嫌い 3 (50.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	きたない	
	素直	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 4 (8.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 13 (26.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 21 (42.0)	嫌い 3 (50.0)	好き 11 (22.0)	嫌い 3 (50.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	頑固	
	考えが新しい	好き 2 (3.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 6 (11.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 18 (35.3)	嫌い 2 (33.3)	好き 20 (39.2)	嫌い 2 (33.3)	好き 4 (7.8)	嫌い 1 (16.7)	考えが古い	
	実習後	尊敬できる	好き 29 (67.4)	嫌い 2 (33.3)	好き 11 (25.6)	嫌い 1 (16.7)	好き 3 (7.0)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	尊敬できない *
		役に立つ	好き 7 (16.3)	嫌い 0 (0.0)	好き 21 (48.8)	嫌い 1 (16.7)	好き 14 (32.6)	嫌い 2 (33.3)	好き 1 (2.3)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	役に立たない *
		好き	好き 24 (55.8)	嫌い 2 (33.0)	好き 17 (39.5)	嫌い 0 (0.0)	好き 2 (4.7)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	嫌い *
		明るい	好き 11 (25.6)	嫌い 0 (0.0)	好き 21 (48.8)	嫌い 2 (33.3)	好き 10 (23.3)	嫌い 3 (50.0)	好き 1 (2.3)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	暗い *
		積極的	好き 1 (2.3)	嫌い 0 (0.0)	好き 15 (34.9)	嫌い 0 (0.0)	好き 13 (30.2)	嫌い 3 (50.0)	好き 10 (23.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 3 (7.0)	嫌い 2 (33.3)	好き 1 (2.3)	嫌い 0 (0.0)	消極的
さっそうとしてい		好き 1 (2.4)	嫌い 0 (0.0)	好き 11 (26.2)	嫌い 0 (0.0)	好き 22 (52.4)	嫌い 2 (33.3)	好き 6 (14.3)	嫌い 4 (66.7)	好き 2 (4.8)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	みじめ *	
強い		好き 2 (4.7)	嫌い 0 (0.0)	好き 15 (34.9)	嫌い 2 (33.3)	好き 9 (20.9)	嫌い 3 (50.0)	好き 14 (32.6)	嫌い 1 (16.7)	好き 2 (4.7)	嫌い 0 (0.0)	好き 1 (2.3)	嫌い 0 (0.0)	弱い	
暖かい		好き 22 (51.2)	嫌い 3 (50.0)	好き 13 (30.2)	嫌い 0 (0.0)	好き 8 (18.6)	嫌い 3 (50.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	冷たい	
やさしい		好き 24 (55.8)	嫌い 2 (33.3)	好き 14 (32.6)	嫌い 0 (0.0)	好き 5 (11.6)	嫌い 4 (66.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	厳しい	
上品		好き 5 (11.6)	嫌い 0 (0.0)	好き 14 (32.6)	嫌い 2 (33.3)	好き 16 (37.2)	嫌い 3 (50.0)	好き 8 (18.6)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	下品	
思いやりがある		好き 16 (37.2)	嫌い 2 (33.3)	好き 20 (46.5)	嫌い 0 (0.0)	好き 7 (16.3)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 2 (33.3)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	思いやりがない	
プライドが高い		好き 3 (7.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 16 (37.2)	嫌い 1 (16.7)	好き 15 (34.9)	嫌い 3 (50.0)	好き 6 (14.0)	嫌い 1 (16.7)	好き 3 (7.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	プライドが低い *	
きれい		好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 15 (34.9)	嫌い 2 (33.3)	好き 17 (39.5)	嫌い 2 (33.3)	好き 10 (23.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 1 (2.3)	嫌い 1 (16.7)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	きたない	
素直		好き 8 (18.6)	嫌い 1 (16.7)	好き 13 (30.2)	嫌い 2 (33.3)	好き 5 (11.6)	嫌い 2 (33.3)	好き 15 (34.9)	嫌い 1 (16.7)	好き 2 (4.7)	嫌い 0 (0.0)	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	頑固	
考えが新しい	好き 0 (0.0)	嫌い 0 (0.0)	好き 2 (4.7)	嫌い 0 (0.0)	好き 12 (27.9)	嫌い 1 (16.7)	好き 17 (39.5)	嫌い 4 (66.7)	好き 9 (20.9)	嫌い 1 (16.7)	好き 3 (7.0)	嫌い 0 (0.0)	考えが古い		

\*\* p<.01, \* p<.05

実習前では「役に立つー役に立たない」「思いやりがあるー思いやりがない」「きれいーきたない」の3項目において両群に有意差を認めたが、実習後ではこれら3項目の有意差はなく、「尊敬できるー尊敬できない」の1項目に有意差を認めた。

高齢者と会話する機会が"ある"群は、実習前のアンケートにおいて「役に立つ」というイメージが強く5-6レベルが23名(67.6%)だったが、機会が"ない"群は9名(39.1%)だった( $p < .05$ )。しかし実習後のアンケートにおいてその差は縮まり、"ある"群19名(61.3%)、"ない"群10名(55.5%)で有意差はみられなくなっていた。

同様に実習前に「思いやりがある」イメージが強かった"ある"群は、5-6レベルが26名(76.5%)であったのに対し、"ない"群は11名(47.8%)であった( $p < .05$ )。しかし実習後には、"ある"群26名(83.9%)、"ない"群12名(66.6%)で有意差はみられず両群共に思いやりがあるイメージが強くなっていた。

実習前の「きれいーきたない」のイメージは、"ある"群は3-4レベルに26名(76.5%)、その他のレベルにもやや分散されていたが、"ない"群は22名(95.6%)が集中して中間を示した( $p < .05$ )。実習後は5レベルが"ある"群11名(35.5%)、"ない"群6名(33.3%)と増え、両群ともやや「きれい」なイメージの方向へと変容し、有意差がみられなくなった。

「尊敬できる」というイメージにおいて、実習前の6レベルは"ある"群で18名(52.9%)、"ない"群が8名(24.8%)で、どちらも5-6レベルに分散されていたが、実習後には"ある"群の6レベルが23名(74.2%)に増え、8名(44.4%)の"ない"群との間に有意差がみられた。

## 2) 実習前の「高齢者との会話を好む度合」別にみた、実習前後における高齢者のイメージ

実習以前に高齢者との会話を好む度合が「好き」「まあまあ好き」と回答したものを「好む」群、「あまり好きではない」「嫌い」と回答したものを「嫌い」群とし、実習前後における高齢者のイメージ変化を表4に示した。

実習前では「好きー嫌い」の1項目において両群に有意差を認めたが、実習後ではさらに、「尊敬できるー尊敬できない」「役に立つー役に立たない」「明るいー暗い」「さっそうとしているーみじめ」「プライドが高いープライドが低い」の5項目が加わって6項目に有意差を認めた。

「尊敬できる」の項目は高齢者との会話を「好む」群と「嫌い」の群との間で実習前に有意差はなく、どちらも5-6レベルが90%以上を占めたのに対し、実習後は「嫌い」群の5-6レベルが50%に減少した( $p < .05$ )。

同様に「役に立つ」の項目は実習前に両群とも5-6レベルが50%以上だったのに対し、実習後は「嫌い」群のみが16.7%に減少した( $p < .05$ )。「明るいー暗い」の項目は実習前に両群ともに中間の3-4レベルが半数以上を占め有意差がなかった。しかし実習後には「好む」群の5-6レベルが74.4%に増えて「明るい」イメージに傾いたのに対し、「嫌い」群は4レベルが増えたものの3-4レベルの割合は50.0%と同じままであった( $p < .05$ )。

「さっそうとしているーみじめ」の項目は、実習前に両群とも中間の3-4レベルが80%以上で差がなかったが、実習後は「嫌い」群が3-4レベル100%だったのに対し「好む」群は5-6レベルが28.6%に増えた( $p < .05$ )。

実習前後とも有意差があったのは「好き」の項目で、「好む」群は実習前の5-6レベルが80.4%、「嫌い」群は16.7%( $p < .05$ )、実習後は「好む」群は5-6レベルが95.3%、「嫌い」群は33.0%だった( $p < .05$ )。

## V. 考 察

### 1. 実習前後における高齢者イメージの変化

実習前後での変化において高齢者のイメージが真逆になるといった極端なイメージ変化はなく、全体的に緩やかな変化がみられた。特に「尊敬できる」「役に立つ」「好き」「暖かい」「優しい」「思いやりがある」の項目では、もともと実習前に5-6レベルのいわゆる肯定的イメージに近かったものがさらに穏やかに肯定的へと変容していく傾向にあった。これは実習までの学内講義や演習で蓄積された知識に基づくイメージが、実習により再確認された結果と考えられる。岩鶴ら<sup>6)</sup>の報告によると、学生の心理面において演習により「高齢者の思いに近づけた」ことが実習により「患者に共感できた」という実感へと変容していくとある。このことから実習においての共感的理解がイメージ変容につながったと考えられる。その中でも一層「好き」「明るい」「暖かい」「優しい」へとイメージ変容したこれらの項目は、知識を得るだけのイメージには限界があり直接交流を持たないと発展しないことを示している。

「弱い」「頑固」「考えが古い」の否定的ともとれるイメージは実習後にどれも減っている。「弱い」においては高齢者の身体的構造が衰退する特徴をとらえる以上に、残存能力を発揮する力や精神的内面の強さを学びとったと捉えることができる。これは実習で関わる高齢者が何らかの日常生活援助を他者に必要としていながらも、疾患を受け入れようとする心理的葛藤の中で生きている姿を学生なりに理解したからであろう。このことは沖田ら<sup>7)</sup>の調査より、高齢者の老いていく姿を成人期の自分自

身と比較してマイナスに感じていたものが、高齢者のライフヒストリーに視点を置くようになったことと一致する。また、「頑固」「考えが古い」においても疾患の受け入れや環境の受け入れにより変容を余儀なくされる高齢者の在り様を受け取ったのかもしれない。

実習前に中間的レベルであった「積極的-消極的」「さっそうとしている-みじめ」「きれい-きたない」の項目については、高齢者との深い会話や具体的な行動の片鱗に触れることでイメージ形成をすると考え、学生がそういった高齢者との関わりを持つことが少ない結果ととらえた。かつ実習後の変化として「さっそうとしている-みじめ」「きれい-きたない」の項目については高齢者の個人差が大きくて、実習で複数の高齢者に関わった結果イメージとして統括しにくかったものと考えられた。

一方で実習後に「考えが古い」「消極的」のイメージは依然として存在しており、実習で在りのままの事実を確認してきた結果と捉えることができる。

今回の調査で、実習を経験することにより15項目のうち半数の8項目に有意な変化が認められた。このことは実習を通して多くを学び多くを感じ、自ら高齢者に対する考えを改めていることがわかる。これは実習の導入過程にある五感を使つての情報収集が大きな意味を持っていると考える。つまり、あらかじめ看護師がとった情報を頭において関わっていくことと、実習の初期から能動的に質問やフィジカルアセスメントを交えて関わっていくことでは、捉えてくる情報の質も量も後者の方が大きいからである。五感をフル回転し、能動的に高齢者と関わっていくことは、早くから高齢者との距離が縮まりやすくコミュニケーション自体が円滑になり、高齢者の内面深くより理解しようとする姿勢が深まると推測される。さらに、受け持った高齢者のケアはグループメンバーで行うため、学生が互いのケアに入る前には、相手が高齢者を理解できるように高齢者の全体像を説明し合っている。この過程を経て高齢者の特徴を理解しようとする意欲が深まり、また、複数の高齢者に関わることで多種の特徴を補い合うことができていると考える。加えて介護療養型医療施設の特徴より、学生は実習場所が高齢者の生活の場であることを学び、当たり前前の生活にあるべき姿へと近づける看護援助を学ぶ。そこに関わっていくことはケアのひとつひとつが人生の意義を考えることにつながっている。その過程において高齢者への深い関わりが実現され、イメージの変容にもつながっているのではないかと考える。

## 2. 学生の属性と高齢者イメージの変化

実習前に「高齢者と話をする機会がある」と回答した学生の多くは、その対象が肉親か近所の良く知っている高

齢者だと推測される。そのような対象とは、顔なじみの関係であり、自分の周囲の人間も含めて接している関係であり、身近な出来事を共有してきた関係だと言えるだろう。したがって話をする機会がある学生は、ない学生に比べ「思いやりがある」というイメージが有意に強かったと考える。同様に「役に立つ」のイメージが強いことも、肉親と普段から生活を共有し役割を持つ姿を目にしていることが影響していると思われる。

「きれい-汚い」の項目において、話す機会が「ある」学生に両極のイメージがあり、「ない」学生は中間イメージだった。このことは、地域環境の中で高齢者と実際触れ合っていない学生は、何がきれいで何がきたないとするのかそのイメージ感覚を持っていなかったと考える。しかし実習後において両群に差が見られなくなったのは、2週間の実習で洗面・排泄・食事等の身体介助を通しながら身近に高齢者と接する機会が与えられていたこと、そこから心身の考察を深めていったことが考えられる。具体的にどんな要素が「きれい」へとイメージ変容させていったのかは本研究では明らかになっておらず、今後学生からの意見を集約して明らかにしていきたい。

これまで高齢者と接する機会があった学生は実習で対象を変えて高齢者を知ることができ、それまでの高齢者の概念を再確認もしくは視野を広げて見直す場に行うことができる。ただしあまり最初の概念が強いと見る視点が偏りがちになる場合もあるため、それにとらわれない視点を実習の中でアドバイスする必要がある。またこれまで機会がなかった学生は、実習の中で捉えたことを柔軟に吸収しイメージに直接つなげていることが分かる。したがって、コミュニケーションが慣れないゆえに偏った理解にならぬよう、実習の早い段階で高齢者と関係を深められるような指導が必要かと思われる。高齢者との関わりがある学生の方が「尊敬できる」のイメージが実習後に強くなったのは、先の考察と同様コミュニケーションのとり方の慣れが関係しているのかもしれない。

「高齢者との会話の好み」別の比較は、実習前に話をするのが「嫌い」と答えた学生が6名とごく少数であったため結果が一人ひとりに影響された。しかしながら全体的に高齢者との会話を「好む」学生は実習を通して肯定的イメージへ変化し、「嫌い」な学生は否定的なイメージへ変化する傾向が認められた。

高齢者と話をするのが「嫌い」と回答した学生のうち、高齢者と会話する機会があったのは4名で、これまでの経験上より何らかの形で話をするのが嫌いになったと考えられる。他2名は会話する機会がほとんどないと回答しているため、メディアや人を通して想像した中で「嫌い」だと思っている可能性がある。どちらにしても高齢者を好きか嫌いかということは、学生が看護の場面で実際に高齢者と接する際に大きな影響を及ぼすと言われ

ており<sup>9)</sup>、嫌いであれば相互関係に悪循環を引き起こしかねない。それは高齢者と会話をするを嫌いだと思っているほど、実習の初期より会話することに苦手意識が働き、それだけ対象理解が疎かになっていくことを発端とする。その状態でケアを展開すれば想定外の反応が返ってくる事が多く、イメージの否定化につながりやすいと推測する。学生の中には、これまでの限定した高齢者との接点や限局した視点での接点から、高齢者と会話することが嫌いだと思込んでいる例が考えられる。実習を通して少しでも多くの高齢者を知り、少しでも深く関係を築き、年齢を重ねた方の理解を通して学生自身に対する振り返りとなる事が期待される。

他にも、高齢者との会話において学生が困難を感じる要因は考えられる。それは実習中に出会う認知症高齢者との関わりである。名倉らは、認知症高齢者との対話においてとまどいや不安を持つ学生が多い<sup>9)10)</sup>と示しており、実習対象となる高齢者によっても、イメージの形成に影響が生じるとされる。学生一人ひとりの背景を知ると同時に、高齢者理解に向けては高齢者の言動や反応に丁寧に着目する視点が大切であり<sup>11)</sup>、目の前の対象に対しての興味を引き出し、高齢者に対するイメージを偏ることなく掘んでこられるよう指導していくことが重要だと考える。

## VI. 結 語

1. 調査した15項目の高齢者イメージのうち、老年実習を経験することによって「好き」「明るい」「素直」「積極的」「強い」「暖かい」「やさしい」「考えが新しい」の8項目が肯定的にとられる方向に変化した。
2. 高齢者と会話をする機会の頻度によって学生を群別して比較した結果、実習前では「役に立つー役に立たない」「思いやりがあるー思いやりがない」「きれいーきたない」の3項目において"ある"群の方が肯定的にとられるイメージを持っていたが、実習後ではこれら3項目のイメージ差がなくなった。
3. 高齢者との会話を好む度合によって学生を群別して比較した結果、実習前では「好きー嫌い」の1項目において"好む"群の方が肯定的なイメージを持っていたが、実習後ではさらに、「尊敬できるー尊敬できない」「役に立つー役に立たない」「明るいー暗い」「さっそうとしているーみじめ」「プライドが高いープライドが低い」の5項目が加わり、6項目において肯定的にとられるイメージを持っていた。

これらより、実習の中で能動的に情報を得ながらかつ関係を築いていく過程を大切に、対象を偏りなく深く理解できるよう、より一層実習の構成や指導に力を入れていくことが重要だと思われた。今後、縦断的

な調査を進めることで、実習前の学生の背景やイメージに影響する潜在因子を探り、学生個々の対応を充実させていきたい。

## 謝 辞

本研究の趣旨をご理解いただきご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

## 文 献

- 1) 畑野相子、北村隆子、安田千寿：老年看護教育プログラムが看護学生の高齢者イメージ形成過程に影響する要因（第1報）、滋賀県立大学紀要(7), 35～46, 2010
- 2) 北村隆子、畑野相子、安田千寿：老年看護教育プログラムが看護学生の高齢者イメージ形成過程に影響する要因（第2報）、滋賀県立大学紀要(7), 47～56, 2010
- 3) 保坂久美子、袖井孝子：大学生の老人イメージ、社会老年学(27), 22～23, 1998
- 4) 守屋滝乃、稲垣宣子、鈴木偉代他：老人に対する意識調査、看護教育 (28), 539, 1987
- 5) 久代和加子、南川雅子、亀井智子：老人保健施設で行う老年看護実習における学びと課題、聖路加看護大学紀要 (27), 52～58, 2001
- 6) 岩鶴早苗、水主千鶴子：老人看護学における教育方法の検討、和歌山県立伊賀大学看護短期大学部紀要 (5), 55-61, 2002
- 7) 沖田由美、中野静子：愛媛県立大学医療技術短期大学紀要(15), 81-87, 2002
- 8) 渡邊裕子、倉田トシ子、森田祐代：看護学生の高齢者イメージに関する研究Vol.11, No13, 159-166, 2005
- 9) 名倉順子、天下井深雪：高齢者のイメージに影響を及ぼす要因、神奈川県立平塚看護専門学校紀要(12), 8-13, 2006
- 10) 松田千登勢、長畑多代：老年看護実習における学生痴呆性高齢者の理解のプロセス、大阪府立看護大学紀要10(1), 43-50, 2004
- 11) 谷本真理子、島田美紀代他：老人ケア施設実習における高齢者理解のための方法としてのナラティブ面接の意義(31), 27-31, 2007

## (Summary)

Factor that geriatric nursing education programs influence  
on elderly people image formation of nursing students (The third report)  
–Comparison before and after the Geriatrics Nnursing Practicum–

Chizu Yasuda, Takako Kitamura, Aiko Hatano

The University of Shiga Prefecture School of Human Nursing

**Key Words** image of the elderly, nursing students, geriatric nursing practical training